

第19号

# すだち

発行：  
高次脳機能障がい  
徳島家族会「すだち」  
住所：  
徳島市新浜町3丁目  
(岩垣方)1-60

## 高次脳機能障がい リハビリテーション講習会

11月8日午後一時から、徳島大学大塚講堂で、高次脳機能障がいリハビリテーション講習会が日本損害保険協会の助成を受けて、「すだち」高次脳機能障がい徳島家族会が主催し、実行委員会形式で開かれました。参加者は高次脳機能障がい当事者、家族をはじめ医療関係者、行政関係者等119名が受講しました。

講習会は、「高次脳機能障がいの症候と医学的リハビリテーション」と題しての特別講演が大田喜久夫教授(国際医療福祉大学院脳神経外科学分野)から行われ、医療機関が果たすべき役割について三重県での経験から急性期治療、リハビリテーション、早期から支援介入し、医学的リハにつなげることが話された外、外傷性脳損傷患者の高次脳機能障がいの症状と特徴とメカニズムが詳しく話されました。続いて行われたミニフォーラムでは、高次脳機能障がい者に対する医科歯科連携として、「愛媛県高次脳機能障がい支援拠点期間活動報告」を伊賀上舞氏(松山リハビリテーション病院・高次脳機能障がい支援室相談支援コーディネーター)の報告、「歯科医療職の立場から高次脳機能障がい者の口腔管理について考える」と題して、吉岡昌美氏(徳島大学院ヘルスバイオサイエンス



挨拶に立つ岩垣家族会会長

研究部口腔保健学分野)の報告と、患者の立場から「高次脳機能障がいを知ってもらいたい」として、佐々木達志氏(高次脳機能障がい徳島家族会・当事者)から障がいの実態の報告と障がいへの理解を求める訴えがありました。

講習会は共催として徳島大学歯学部口腔保健学部、また講習会を徳島県社会福祉士会、徳島県医療ソーシャルワーカー協会、徳島県精神保健福祉士会、徳島県福祉協議会の後援で開催されました。会場では、参加者に家族会が作った「難転・苦去=南天・九猿」の置物が手渡されました。

### お知らせ

#### 「すだち」高次脳機能障がい徳島家族会総会

開催日時 2015年1月18日(日曜日) 10時~12時

開催場所 徳島県立障がい者交流プラザ(徳島市南矢三町)088-631-1000

内 容 第8回「すだち」高次脳機能障がい徳島家族会総会

## リハビリテーション講習会に寄せられた挨拶

### 高次脳機能障がい関係者の連携

今年は、台風、大雨による土砂災害や御嶽山の火山噴火など自然災害が多く、被災者の方々には心からお見舞い申し上げます。さて本年も、徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会を開催することになり、事務局の高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」および資金助成をいただいている一般社団法人日本損害保険協会、後援いただいている関係各位の皆様のご努力に心から感謝申し上げます。

国からの要請で高次脳機能障がい支援ネットワーク構築に関する研究及び活動が約10年前から始まり、四国ブロックにおいても各県に中核支援施設と支援コーディネーターが配置され、行政や医療機関、社会福祉関連施設、高次脳機能障がい当事者および家族の皆さんとの連携も円滑になってきました。毎年行われているこの講習会も連携の強化や知識の普及に大いに貢献しています。

今回は、国際医療福祉大学院リハビリテーション科部長大田喜久夫先生をお迎えし「高次脳機能障がいの症候と医学的リハビリテーション」のタイトルで特別講演をいただく予定です。また引き続いて「高次脳機能障がい者に対する医科歯科連携」を推進している徳島大学院地域医療福祉分野の白山晴彦教授を中心にミニフォーラムも企画されています。また、講習会に先立って高次脳機能障がい者支援の四国ブロック会議が開催されましたので、この機会に情報交換や交流をしていただければ幸いです。講習会が実り多いものになることを願っています。

平成26年11月 徳島大学脳神経外科教授  
徳島大学病院高次脳機能障がい  
支援センター長 永廣信治

### 講習会に寄せて

秋深まる頃、本来なら紅葉狩りなどの行楽にお出かけになる方も多い中、本講習会にご参加頂きますことを心から感謝申し上げます。さて、この度『高次脳機能障がい者に対する医科歯科連携』というテーマのミニフォーラムを担当させて頂くことになりました。世の常として、物事を成す場合、なんらかの社会装置が必要であると言われています。ここでいう社会装置とは、高次脳機能障がい者を支援するシステムのことを指し、医師、歯科医師、看護師、療法士、MSWなどによる多職種協働を主体とする場合、特に「連携」が重要な鍵となります。しかし「連携」は高次脳機能障がいという症状と同様、目に見えにくいものですし、常に変容していくものと考えています。そこで我々は、「連携」を目で見ることができ、さまざまな変化に対応できる「こうじのーと」という媒介を開発しました。今回の、縁者の先生方には支援コーディネーター、歯科医師、当事者という立場からその有用性、問題点などについて発表して頂きます。加えて、ご参加の皆様からの貴重なご意見を交え、活発なフォーラムなりますことを願っています。

平成26年11月8日 徳島大学院地域医療  
福祉学分野教授 白山晴彦

### 徳島高次脳機能障がい

#### リハビリテーション講習会の開催について

平素は、高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」の活動について、様々なご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。今年度で6回目、徳島家族会「すだち」が関わらせていただき、一般社団法人日本損害保険協会様の資金助成を得て、「徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会」を開催することとなりました。講習会実行委員長には、徳島大学医学部の永廣教授にご就任いただき、諸準備を終え、本日ここに講習会開催の運びとなりました。講習会実行委員長の永廣教授並びに白山副委員長、委員の皆様には、色々とご配慮いただきましたことを、紙上をお借りして、厚く御礼申し上げます。徳島家族会「すだち」も設立以来6年9ヶ月余りとなり、会員も増減があり現在30名強（正会員、賛助会員）となっております。この間徳島家族会「すだち」は、県下の行政、医療、福祉、マスコミ等へ様々な働きかけを行い、この障がいへのご理解、ご認識を深めていただくよう努めてまいりました。他方、会員相互の親睦と関わりを深めていただくために、平成23年2月から毎月第3土曜日に「定例交流会」を開催しております。このようなことで、少しずつではありますが、家族会結成の目的が実現へ向かって進んでいるものと自負しております。本日は、ご遠方よりお越しいただきました講師先生ほか、ご出演の皆様方の貴重なお話を通じて、ご来場の皆様方のご認識をより深めていただき、当家族会への一層のご協力、ご支援を賜りますよう。心より、よろしくお願ひもうしあげます。

平成26年11月8日 徳島家族会「すだち」  
会長 岩垣啓路

### 徳島高次脳機能障がい

#### リハビリテーション講習会参加者の皆様へ

一般社団法人日本損害保険協会業務企画部長大坪護

助成団体として一言ご挨拶を申しあげます。日本損害保険協会では、自賠責保険の保険料を原資にし、その運用益を活用して自動車事故による被害者救済・支援のための事業を実施しております。本日の「リハビリテーション講習会」への助成事業もその一つです。この講習会は、より多くの方に高次脳機能障がいに対する理解を深めて頂くことはもちろんですが、交通事故によって高次脳機能障害を受けられた被害者やご家族の方々にもご参加いただき、リハビリテーションにかんする情報や社会復帰に向けたさまざまな情報をご提供すること、ひいては、当事者・家族間の交流や情報交換を行っていただくことで日々の生活に役立てていただきたいという目的で実施しているものです。

これまで多くの方々のご協力により、今年度で12年目を迎えました。また、当初12ヶ所で行っていましたが、今年度は39道府県で講習会が開催される予定となっております。これもひとえに、本講習会の運営に携わっている方々の熱意とご厚情の賜物と、あらためて厚くお礼申し上げますとともに、参加されている皆様にとりまして、是非とも有意義なものとなりますよう祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

## 第14回脳外傷友の会全国大会 ～地域での回復と自己実現～

2014inしまね

日本脳外傷友の会第14回全国大会が、「地域での回復と自己実現」をスローガンに10月25日島根県民会館大ホール(松江市)に会員、関係者300余名が集い開催され「すだち」からは6名が出席、また大会前夜の24日午後6時からホテル一畠で全国交流会が開かれました。すだち「徳島家族会」からは5名が参加しました。

大会前日24日の交流集会には、当事者、家族ら309名が出席し、大会実行委員会を代表して現地島根県の西村敏会長が歓迎のあいさつ、東川全国会長のあいさつに続いて、全国の参加者の紹介があり、和やかに全国の会員間の懇親交流会がひらかされました。

翌日25日は、県民ホールで年次大会が西村現地大会実行委員長のあいさつで開会し、来賓参加のあいさつに続いて、25年度当事者活動奨励賞の授与が行われ、脳外傷友の会「イーハトーブ」の小国尊容さんら4名が表彰され、つづいて東川会長から年次報告が行われ全員で確認されました。

その後、「高次脳機能障がいに対する就労支援の取り組み」として、名倉彰子氏(厚生労働省職業安定局障害者雇用専門官)の報告があり、続いて「脳機能



の回復と自己実現」と題して、小林祥泰氏(島根大学学長)による基調講演、「高次脳機能障がいとともに地域で生きる」～脳損傷者のリカバリーへの道と支援～とする講演が高橋幸男氏(エスポアール出雲クリニック院長)からありました。またシンポジュームでは「ともに生きる」とて、開催され6名のシンポジストの発言がありました。

### 日本脳外傷友の会第14回全国大会INしまねアピール

当地、松江出身のに錦織選手の全米テニス選手権試合準優勝は、大きなニュースでした。災害続き等で、停滞していた空気を吹き飛ばす快挙として地元には特に大きな喜びをもたらしました。松江は歴史の古い街ですが、スポーツの街であることを印象づけました。又「この子らを世の光に」という言葉を残して早逝された障がい児支援の先駆者糸賀一雄氏は旧制松江中学の出身です。歴史の重みを次の世代へ橋渡しする責任を感じながら、第14回の全国大会をこの地で開催するにあたり、まだ未整備な高次脳機能障がいの支援施策を充実するために次の3点を強くアピールします。

1. 本大会のテーマとなった「地域での回復と自己実現」を図るために高次脳機能障がいへの理解を求める活動の強化と努力が必要です。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」声を上げ続けましょう。
2. 高次脳機能障がい支援拠点機関のさらなる充実を図り、人生の復権であるリハビリテーションに重要な役割を果たす公認審理士の国家資格付与と、診療報酬への加算を要望しましょう。
3. 小児期から一貫した高次脳機能障がいの就学、進学、就労、地域生活を送るための有効な支援システムを検討し、介護者亡き後も不安なく生きられるようにする活動を一步前に進めましょう。

他の団体とともに障がい者の権利条約にも強い関心を持って絵に描いた餅ではない地域包括ケアシステムを整備し、障がい者差別を許さない、誰もが平等に住みやすい社会が実現することを願い、第14回島根大会のアピールとします。

平成26年10月25日

## 高次脳機能障がい実践的 アプローチ講習会

12月7日東京慈恵会医科大学講堂(東京港区)で東京高次脳機能障がい協議会(TKK)主催の高次脳機能障がい実践的アプローチ講習会が開かれ、全国から医療関係者を中心に250名余りが受講しました。徳島家族会からも1名受講しました。

TKK主催の講習会は、今年5月、8月、12月の3期日で開催され、いずれの期日も4講座が開催されることになっています。最終となる今回第3期日では、第一講座は、橋本圭司氏(国立成育医療研究センターリハビリテーション科医長)による「小児・学童期の高次脳機能障がい者支援・発達を支える子どものリハビリテーション」と題しての講義があり、高次脳機能障がい者のサインと対処法について、具体的に実践経験も含めての講義があり、疲れやすさへの対処、感覚過敏・鈍麻への対応がはなされました。

**ヤアヤアヤア TASKE がうどん県にやって来る  
～高次脳機能障害者と友達になろう～**

12月6日高次脳機能障害のリハビリ講習会が志度音楽ホールで開催され、徳島家族会「すだち」からも5名が参加し講習をうけました。10歳の時に交通事故に遭い、難聴、高次脳機能障害となりながらも、歌、お笑い、詩の朗読等の活動を行っているTASKE(谷龜西太典氏)の活動報告と、かがわ総合リハビリテーションセンター支援コーディネーター森川麻理氏による基調講演がありました。

### 高次脳機能障がいの障がいの判定

高次脳機能障がいについては、前号で記しましたが、高次脳機能障がいの障がい等級の判定方法は、他の後遺障がいとは異なる「特定事案」として扱われ、専門医などにより構成された「高次脳機能障がいの専門部会」において等級認定がなされることになります。これは、高次脳機能障がいの等級認定の判断が、高度の専門的な知識や経験を必要とするため、より慎重に判断するための仕組みを作ったものと思われます。このような仕組みの存在からも高次脳機能障がいの等級判定がいかに困難なものかということがわかります。次回に高次脳機能障がい等級認定基準を掲載します。

第二講座では、納谷敦夫氏(なやクリニック・高次脳機能障害外来医師)による「高次脳機能障がい者支援グループホームへの

道」と題した講義が、長男の障害をもとに報告されました。

第三講座では、西脇恵子氏(日本歯科大学付属病院言語聴覚室長)による「高次脳機能障がい者支援・コミュニケーション支援」と題しての講義がありました。言葉、社会のやり取り、人間関係、仕事発揮等の障がいにかかるコミュニケーションのあり方の講義がありました。

第四講座では、生方克之氏(神奈川リハビリテーション病院医療福祉相談室)による「高次脳機能障がい者と社会制度」と題した講義があり、高次脳機能障がい者の活用、利用できる制度について、傷病原因により活用できる制度が仮想事案に基づいた講義がありました。

### 大塚製薬板野工場見学

#### ～サンガリリハビリプラザ徳島～

11月28日サンガリリハビリプラザ徳島では、外出活動として大塚製薬板野工場を見学しました。北出修子理事長と共に車で移動、広報担当から説明を受け、工場内を見学、巨大な機械装置が稼動し、「ソイッシュ、ソイジョイ、ソイカラ」の三種類の菓子(大豆を原材料)を製造、僅か20名位の作業員で行っていました。世界の60ヶ所で生産されているとのことでした。北出先生からの急なお誘いでしたので、中川夫妻と会長の3名が参加見学しました。

